

(10月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
だいこん		12,916	98	12,433	93	97	88	128	1.0	北海道、青森中心の入荷で全体の約6割を占める。北海道産は盆前に播種作業が終了。平年並みに10月10日前後で収穫終了見込み。生育も順調で平年並みの作柄と予想される。青森産は春の価格安から作付けが減少。9月の入荷は少なかったが、10月の入荷は増える見込み。しかし、例年ほどの入荷はない。入荷量は全国的な作付け減から前年を下回り、価格は秋刀魚の豊漁により、引き合い強いものの高値だった前年を下回る見込み。
にんじん		8,357	95	8,158	116	99	107	-	-	北海道中心の入荷で全体の約9割を占める。北海道産は6割が終わったところであるが、生産量は例年の9割程度と少ない。サイズもやや小ぶりとなっている。10月は現状のペースでの出荷が見込まれる。全体の入荷量は前年を下回り、価格は前年をやや下回る見込み。
はくさい		13,000	98	13,042	76	84	68	-	-	長野、茨城産中心の入荷で全体の8割を占める。長野産は春先から続いた天候不順により全般的に品質は良くない。9月に入り品質は良くなったが、例年ほどには回復していない。10月は前年の9割の入荷と見込まれる。茨城産は定植時の長雨の影響で定植が計画どおり進まなかったが、出荷は例年並に始まった。入荷量は前年並みとなる見込み。全体の入荷量は前並をやや下回り、価格は前年を下回る見込み。
キャベツ類		15,157	100	14,513	75	86	80	-	-	群馬、青森産中心の入荷で全体の約6割を占める。群馬産は10月も引き続き8玉中心の出荷で前年並みの見込み。青森産は品質良好。8玉中心で十分な入荷が見込まれる。全体の入荷量は前年並、価格は前年を下回る見込み。

(10月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
ほうれんそう		1,706	102	1,760	534	88	540	-	-	群馬、岩手産が市況をリードする。群馬産は突風の被害から遅れ気味となっていたが、10月には回復し前年を上回る見込み。岩手産は9月に入り天候が安定し、潤沢な入荷が続いている。10月出荷分についても生育は順調で平年を上回る見込み。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を下回る見込み。
ねぎ		5,761	101	5,720	314	83	254	356	6.2	青森を中心とする東北産が市況をリードする。青森産は盆明けの長雨で腐れが発生。2～3割の被害のため10月は平年を下回る見込み。茨城産は10月始めから秋冬ものが本格化する。生育も順調で平年並みの入荷見込み。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格前年を下回る見込み。
レタス類		8,726	103	8,110	158	82	170	-	-	茨城産中心の入荷で全体の約6割を占める。茨城産は10月上旬から入荷量が増え、中旬からピークに入る見込み。出荷は平年に比べ1週間ほど遅れており、10月は平年を下回る見込み。全体の入荷量は前年を上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。
きゅうり		6,245	103	6,070	278	90	288	84	1.3	埼玉を中心とする関東産の抑制ものが市況をリードする。埼玉産は8月中旬以降の曇天と降雨が影響し例年に比べると10日程度遅れている。入荷量は加温栽培も始まるので平年並みの見込み。群馬産は抑制ものが1週間程度遅れている。作付けは前年並みで、入荷量も平年並みの見込み。全体の入荷量は前年を上回り、価格は前年を下回る見込み。
なす		3,136	99	3,179	308	94	298	-	-	高知、栃木産中心の入荷で全体の約5割を占める。高知産は生育順調で出荷始めは例年より早まる見込み。作付けは前年並みで、作柄は平年作と見込まれる。栃木産は生育順調で、台風で品質低下した前年を上回る見込み。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を下回る見込み。

(10月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
トマト		5,816	102	6,418	428	82	361	62	1.1	千葉、茨城を中心とする関東産の抑制ものが市況をリードする。千葉産は10月上旬の入荷は少ないが、中旬以降は越冬ものの入荷が始まるため、10月としては前年を上回る見込み。茨城産は作付けが前年より1割程度少なく、入荷量も前年を下回る見込み。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を下回る見込み。
ピーマン		2,054	98	1,997	317	95	319	-	-	茨城、岩手産中心で全体の約7割を占める。茨城産は9月に入ってから好天により着果良好で順調な入荷が見込まれる。温室ものの出荷も始まるので入荷量は前年を上回る見込み。福島産は9月下旬にピークを迎え、10月は徐々に減りながら推移する見込み。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を下回る見込み。
ばれいしょ		8,536	98	7,512	84	131	99	-	-	北海道産中心の入荷で市況をリードする。北海道産は5月の干ばつや低温の影響で小玉傾向。作柄は平年作で豊作だった前年をやや下回る見込み。価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。
たまねぎ		12,137	98	11,083	68	130	80	-	-	北海道中心の入荷で全体の約9割を占める。北海道産は収穫が90%終了。作柄は平年作。品質は良く、階級は肥大し大とLが中心。価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。